

地域審議会資料

「小中一貫・連携教育について」



平成25年1月22日(火)
八代市教育委員会 学校教育課

なぜ、小中一貫・連携教育なのか

(1) 社会的背景

- 学力・学習意欲の低下
- いじめ・不登校の問題
- 基本的生活習慣の未定着
- 規範意識の低下
- 問題行動の低年齢化

なぜ、小中一貫・連携教育なのか

(2) 小中の接続期の課題

- 中学1年生の不安感・不適応から学習意欲の低下、学力の低下、不登校など、「**中1ギャップ**」の傾向が見られる。
- 小学校から中学校へ子どもの成長をどうつなぐか。

なぜ、小中一貫・連携教育なのか

(3) 国の教育施策の動向

- 第3期中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する(答申)」(H17)
- 教育振興基本計画(H20)
- 教育再生懇談会「これまでの審議のまとめ～第四次報告～」(H21)
- 第6期中央教育審議会(学校段階間の連携・接続等に関する作業部会)「小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理」(H24)

なぜ、小中一貫・連携教育なのか

(4)八代市の教育課題

- 学力の向上
- 不登校の未然防止と解消

八代市の取組

【教育理念】 八代の未来を担うひとづくり

【教育目標】

八代の未来を担う子どもたちの限りない成長を願い、確かな学力、豊かな心、健やかな体などの「生きる力」を育むため、生涯学習社会を展望し、地域との連携のもと、校長を中心とした特色ある学校教育を推進する。

～「小中一貫・連携教育」の推進をとおして～

小中一貫・連携教育基本方針

- ①八代の未来を担う子どもたちの限りない成長を願い、児童生徒の心身の発達に応じた適切な指導の在り方として、より多くの効果が期待できる小中一貫・連携教育を全小中学校において推進します。

小中一貫・連携教育基本方針

- ②小中一貫・連携教育による義務教育9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体などの「生きる力」を育みます。

小中一貫・連携教育基本方針

- ③ **小中学校の教員**がお互いの教育の在り方及びつながりを理解し合い、相互に連携・協力して児童生徒理解を深め、協働によるきめ細かな指導を充実し、学力の向上及び学校生活への適応力の向上を図ります。

小中一貫・連携教育基本方針

- ④ 各学校では、**保護者や地域と一体**となった教育環境づくりを推進し、地域の特色を生かした教育活動を展開するとともに、その地域ならではの特色ある学校づくりを進めます。

小中一貫・連携教育基本方針

- ⑤ 平成23年度から段階的に導入を進めることとし、モデル校を指定し、取組の成果を検証します。その成果を踏まえ、**平成27年度までには**すべての小中学校において小中一貫・連携教育を導入することを目標とします。

期待する教育効果

- ① 小中学校教職員の持つ専門性やきめ細やかな指導など、互いのよさを生かした指導を通して、「**学びと育ちの連続性**」を図ることができます。



- ・学力の向上
- ・コミュニケーション能力や規範意識、自己有用感の向上

期待する教育効果

②小中学校教職員の連携による、より深い児童生徒理解に基づく指導が可能となることから、中学校進学に対する不安の解消や進学への期待のふくらみで、「**中一ギャップ**」を解消することができます。



・不登校や問題行動等の
生徒指導上の諸課題の減少

期待する教育効果

③小中学校教職員が、児童生徒の発達段階及びそれぞれの校種の特徴を踏まえた上で指導にあたることにより、**教職員の指導力の向上を図る**ことができます。



・教職員の意識改革
・地域の教育力の向上

【タイプ】



一体型

「泉小中一貫校」の開校(平成26年度予定)

隣接型

第四・日奈久・坂本・千丁 4校区

校区型

◆小学校が単独の中学校区 3校区
第五・第六・二見

◆小学校が複数の中学校区 8校区
第一・第二・第三・第七・第八・鏡・東陽・泉

市教委の取組

推進組織

- 「市小中一貫・連携教育推進協議会」の設置
- 小中一貫・連携教育推進モデル校の指定
- 「市小中一貫・連携教育推進モデル校連絡会」の開催

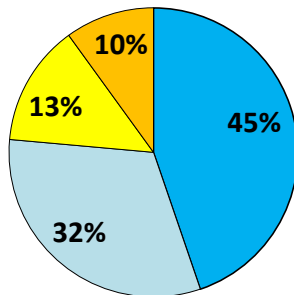
市教委の取組

研修・啓発

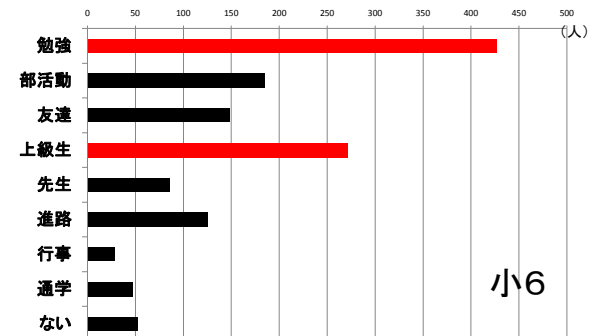
- 先進地視察(福岡・佐賀・宮崎・広島)
- 小中連携コーディネーターの位置付け
- 教職員研修
- 教育サポートセンターに研究部会を新設
- 全市意識調査(児童生徒・教職員・保護者)
- 市報8月号に啓発資料掲載

中学生になるのが楽しみですか？

■ 楽しみ
■ どちらかといえば楽しみ
■ どちらかといえば楽しみではない
■ 楽しみではない

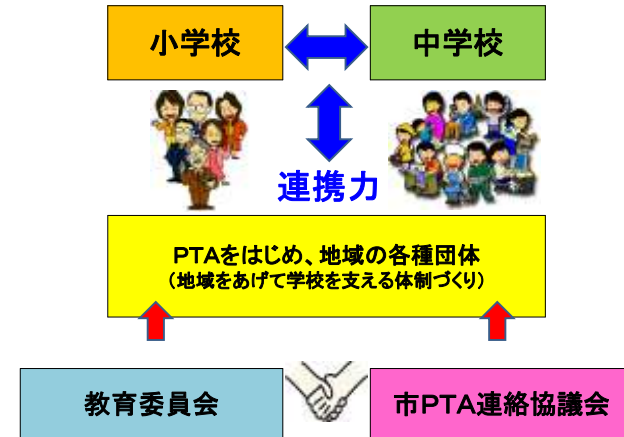


中学校へ行って心配なことは何ですか？ (複数回答可)



各種団体との連携

- 市P連
 - ・市PTA研究大会で発表(H23)
 - ・八代市教育懇談会で意見交換(H23)
 - ・市P特別委員会の設置(H24)
 - ・PTAモデル校区の指定(H24)
 - ・八P合同研修会で講話(H24)
 - ・単P研修会に参加(H24)
- 総社教、老人会、婦人会



取組のキーワード

先生をつなぐ
子どもをつなぐ
地域をつなぐ

一中校区

- 導入に向けて
 - ・第1段階 … 準備委員会の設置、目指す子ども像、育てたい力の設定
 - ・第2段階 … 協働体制の整備・組織づくり、全体計画・年間計画の作成
 - ・第3段階 … 計画にもとづく実践化
- 具体的内容
 - ・全員研修会(約140人)
 - ・交流授業、系統性のある学習規律
 - ・児童会・生徒会合同リーダー会議

二中校区

- 学習指導
 - ・授業のシステムづくり
 - ・家庭学習の手引きづくり
 - ・相互授業公開
- 交流
 - ・児童会・生徒会の連携体制(合同あいさつ運動)
 - ・音楽会・文化発表会・運動会への相互参加
 - ・部活動の交流指導(陸上・サッカー)

五中校区

- 小中合同研究テーマの設定
「進んで考え、豊かに伝え合う子どもの育成」
- 協働体制の整備
 - ・家庭学習の手引き作成
 - ・合同あいさつ運動
 - ・「小中一貫・連携教育便り」の発行
- 地域との連携
 - ・総社教との連携で「高田ん子塾」の実施
(おもな目的は小・中学生のリーダー育成、高田小で1泊2日の交流体験活動)

四中校区

- めざす子ども像の設定
- 授業づくり部会
 - ・合同研修会
 - ・家庭学習の手引き作成
- 心の成長と交流部会
 - ・合同あいさつ運動、ノーメディアデー
- 地域絆部会
 - ・合同講演会、人材マップ作成
 - ・学校支援地域本部事業の活用

六中校区

- 学習指導
 - ・相互授業参観、合同授業研究会
 - ・9年間を見通した教科の年間計画
- 生徒指導
 - ・情報交換、部会別研修
- 交流事業
 - ・小中合同あいさつ運動、握手会
 - ・中→小学校運動会への参加
 - ・小→中学校文化祭で発表
 - ・小→中学校での授業(空き教室活用)

八中校区

- 各部会の提案事項の具現化
 - ・授業づくり部会 … 学習の基盤づくり
 - ・生活づくり部会 … ソーシャルスキル
 - ・**「みやじ学」部会** … 道徳・特活・総合的な学習・生活科を中心に、地域に根ざした系統的な学習活動(小5・6、中1)
- 合同行事
 - ・いっそでウオーク、わわわっフェスタ

日奈久中校区

- めざす子ども像の設定
 - 「郷土日奈久を誇りに思える子ども」
 - 「たくましく生き抜く子ども」
- 協働体制の整備
 - ・学びの部会、心の部会、育ちの部会
- 指導内容・方法の充実
 - ・小中連携カリキュラムの作成
 - ・合同運動会、合同避難訓練
- 学校応援団の体制づくり
 - ・**日奈久学校応援団ミルサポーターの募集**

二見中校区

- めざす子ども像の設定
 - 「自他の良さを認め、よりよい人間関係を築ける子ども」
- 協働体制の整備
 - ・相互授業参観、合同学習会
- 指導内容・方法の充実
 - ・**合同運動会**
- 地域やPTAによる体制づくり
 - ・合同通学路点検や資源回収

坂本中校区

- めざす子ども像の設定
 - 「ふるさとを愛し、夢や希望に向かって励まし合ってがんばる子ども」
- 協働体制の整備
 - ・学習指導部会、生徒指導部会、特活部会、PTA地域連携部会
- 指導内容・方法の充実
 - ・**合同遠足、読み聞かせ交流**

千丁中校区

- 協働体制の整備
 - ・連携推進委員会の設置
- めざす子ども像の設定
 - 「夢や希望に向かって、生き生きと活動する子ども」
- 指導内容・方法の検討
 - ・9年カリキュラムの作成(1～4年国際理解教育・5～6年外国語活動・中学校英語)
- 人的交流の活性化
 - ・合同研修、交流授業

東陽中校区

- 指導内容・方法の充実
 - ・兼務発令で毎週1時間の乗り入れ授業(音楽、外国語活動)
 - ・9年間を見通した指導計画の作成
- 協働体制の整備
 - ・3校全体会議(年間8回)
- 東陽中校区小中一貫・連携教育のパンフレット作成
- 東陽町PTA連絡協議会との連携

泉中校区

- 連携教育目標の設定
 - 「ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子ども」
- 協働体制の整備
 - 泉町保・小・中・高連携推進協議会を組織
- 指導内容・方法の充実
 - ・小小連携行事…集合学習、修学旅行、社会科見学旅行、集団宿泊教室
- 小中一貫校開校に向けた準備

モデル校区取組の成果

1 教職員

- ①教職員の交流が活発になることで、より親密になり、相互理解が進んだ。
- ②合同研修会などを通して、児童生徒理解が図られた。
- ③課題解決のための具体的な共通実践事項が明確になり、取り組んだ成果があった。

モデル校区取組の成果

2 児童生徒

- ①異学年交流を実施することで、好ましい人間関係づくりが深まった。
- ②小学生は中学生にあこがれの気持ちを抱き、中学生は小学生のよき手本として行動することで自己有用感が高まってきた。
- ③小小連携の取組で、中学校入学までに知り合い、仲間づくりができた。

モデル校区取組の成果

3 保護者・地域

- ①小中一貫・連携教育に対する関心が高まり、小中の取組や児童生徒の成長に関する協力が進んだ。
- ②PTA活動も合同で行うことで、小中PTAの連携が深まった。

モデル校区取組の課題

- 教職員の意識に温度差がある。
- 合同研修や打合せの時間の確保が難しい。
- 相互乗り入れ授業については、負担感の問題や移動の時間的な課題がある。
- 9年間を見通したカリキュラムの作成が必要である。
- 小中にまたがる学校応援団の組織づくりをどうするか。